

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201042
法人名	有限会社 かけはし
事業所名	グループホーム かけはし
所在地	福岡県福岡市西区愛宕南2丁目13-23
自己評価作成日	平成25年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月29日	評価結果確定日	平成25年7月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、個人の自由を尊重し、その人らしく生きていくことを大事にしている
その日の気分に対応し、無理に型にはめ込まずにのびのびと生活して頂いている
駅も近く家族等の面会にも便利で入居者も利便性が高い
食事作りもリビング・キッチンと並んでよく見通せ、常に入居者とスタッフが声掛けあえる
職員の勤続年数も長く、意思の疎通ができていて、細かところまで心配りができている
個室も窓も広く日当たりも良く、リビングも中心にあり、トイレ等の動線もスムーズで環境が整っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利便性の高い市街地の中に位置し、近隣には日常的に利用するコンビニエンスストアや喫茶スペース等がある。4階建ての産婦人科医院を改修し、2、3階部分をグループホームとして開設して9年目を迎えている。代表者は、広い視野で福祉を捉えながら、「自由に選択し、自由に生きる」の理念の実践に向けて、事業運営に向き合っている。また、職員は、心身機能の維持、活用に向け、必要な支援を見極めながら、日常の暮らしの営みを見守っている。少しずつ重度化へと移行していく中で、昨年は、医療との連携や、チーム介護を活かし、看取りを経験している。今後も、個別の暮らしに寄り添いながら、地域拠点としての存在の高まりが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自由に選択し、自由に生きる』が管理者と従業員に定着している 一人ひとりの様子を日々観察し、その都度対応している	開設時に作成された独自の理念「自由に選択し、自由に生きる」のもとに、毎日のカンファレンス等を通じて、共有を図っている。介護者の都合ではなく、入居者本人を第一に考えたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生員・地域住民代表と話し合いを持ち情報交換を行っている 職員と入居者も近所のコンビニや喫茶に出かけ、利用している	自治会に加入している。回覧板等を通じて情報収集を行い、町内で実施される防災訓練にも職員が参加し、地域の一員としての活動を行っている。近隣のコンビニエンスストアや和菓子店、青果店等は日常的に利用しており、顔なじみの関係となっている。市民後見人養成研修の実習生を受け入れており、その後も三味線のボランティアとしてホームに訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者と散歩に出かけ、挨拶をしたり、会話をするようにしている 見学はいつでも受付け、研修も積極的に受け入れている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回定期的に行い、幅広く参加をお願いし、状況報告、意見交換を行っている また、記録を残し、スタッフも周知し、サービスの向上に活かしている	運営推進会議は、入居者、家族、地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員が参加して、2ヶ月に1回、定期開催されている。活動状況や運営について報告を行い、情報共有や意見交換の場として活かし、運営に反映できる様努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や地域包括支援センターの方から情報提供をして頂き、指導を受けながらより良いグループホームを目指している	運営推進会議には、地域包括支援センター職員、及び行政担当者の出席を得る機会がある。情報共有を図り、アドバイスを頂きながら、サービスの向上に努めている。ケースワーカーの方との連携も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部の研修報告を行い、身体拘束をしない介護に取り組んで、その他の方法でケアを実践している 成果が表れ、身体拘束をしなくて良くなったケースがある	年間研修計画の中に位置付け、職員の意識を高めるよう努めている。身体拘束の解除に向けた視点を確保し、日常の中で気付きを得ながら、寄り添うケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修でテーマとして学び、ミーティングでも取り上げ、ふとした言葉にも十分注意を払っている 入居者同士の関係にも気を付けている		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を受けている入居者を受け入れ、福岡市の市民後見人養成講習の実習生を受け入れた そのためか職員も話だけでなく、身近に感じている	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、市民後見人養成研修の施設実習生の受け入れ等を通じて、制度の理解を深めている。今後は、これらの取り組みを踏まえ、より積極的な情報提供の機会の確保に期待します。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明し、書類は持ち帰ってもらい、時間をかけて考えて納得できるようにしている 質問をいつでも受け付ける体制を作っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置し、いつでも遠慮なく受け入れる体制を作っている また、折あらば、個人的に尋ねている	関係機関の苦情相談窓口の案内や、苦情相談箱を設置し、家族来訪時も含め、意見の表出に努めている。	家族との信頼関係を更に深めるためにも、日常の様子を伝える便り等の情報提供の手段や、家族同士が集い、話し合える機会作り等への取り組みに期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の話し合いの場で何でも意見を聞き、話し合いを持って解決している また、個人的にもいつでも受け付けている	全体会議や日々のカンファレンスを通じて、職員意見の収集に努めている。在日フィリピン人スタッフも勤務しており、コミュニケーションを密にし、意見の聴取や指導を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業日については月2回に分け調整し、急な休みにも快く対応している わからないことは何度も質問し、答える雰囲気がある		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の年齢も性別もバラつきがある 仕事の内容はローテーションにより、平等にお願いしている 向上心を大事にし、何でもできるように、お互いに教え合い、助け合っている	職員の採用にあたっては人間性を重視し、年齢や性別、国籍等による制限は設けていない。資格取得に向けた配慮や、内外の研修参加を奨励し、全体でのレベルアップを促している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングでも話し合い、その都度、人権を尊重してないような行いがいか検討している そのような事が無い様にお互いに注意している	研修計画の中に位置付け、様々な視点から、人権意識を高めるよう取り組んでいる。また、職員のストレスケアにも留意し、研修を行っている。	

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は研修の情報を職員に提供し、参加するように促している 職員の様子を見ると同時にいろんな相談にも快く応じている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を受けた際に新たに知り合った方と交流を図り、勉強したことを内部に持ち帰り発表している		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居までの情報を得て、契約の段階でインテークを行い、入居後も本人から頻りに機会を作り、慣れるまでできるだけ多く話を伺っている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階でできるだけお話を伺い、契約時、入居時、その後も折を見て話を聴かせてもらっている 家族にできるだけ面会と意見をお願いしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階で、現在の状況をお聞きし、選択肢が色々ある事を伝え、それぞれの決まりや説明を行っている ここの特徴、雰囲気も伝えている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく生活できるように支援しながら、常に本人の気持ちを大切に、寄り添っている 一緒に運動や、歌を唄ったりと楽しみを持ち、同じ場所で食事を摂り、常に傍にいる		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がみえたら気持ちよく過ごしてもらえるように気を付けている 状況の報告や相談を行い、ケアに対しても意見を伺っている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会を促し、気持ちよく時を過ごしてもらえるように、又、行きたい場所へ外出できるように支援している	馴染みの美容室や理髪店の利用や、新聞の購読を継続している。近隣のコンビニエンスストアや青果店、和菓子店等では、買い物や喫茶に日常的に出掛け、馴染みの関係性を築いている。	

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、共有する場面を作り、交流を持ってもらっている お互いに助け合って、注意を促してくれたり、仲良く過ごしておられる場面がみられる		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気安く訪ねてくれるようお願いし、入院の際はお見舞いに行き、本人や家族との関係を保つようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつも入居者本位に生活できるように考え、要望が聞ける場合はお聞きし、相談し、意向を汲み取っている	入居時の情報収集や、日常の中で表出された情報を共有し、思いや意向の把握に努めている。職員はコミュニケーションを大切にしながら、心身の活性化に結びつけるよう取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を始め家族や利用していたサービスの事業者等から以前の生活の様子を聞く 使用している馴染みの物を持ってきてもらう		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子観察を行い、見守りを重視している 声かけし、反応をみながら一緒に過ごしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気になる事はすぐに相談し、対処方法を考え実行している 定期的に担当者会議を開きより良いケアができるように計画を練っている	入居者や職員等が参加する担当者会議を開催し、達成度や満足度等をもとに評価を実施し、今後の方向性を検討している。日々の記録やアセスメント様式の中に、個別の「暮らし」や「思い」に関する視点を加えることで、より本人本位の計画作成と、認知症ケアへのアプローチへと結び付けて欲しい。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、排泄とケアの実施記録をつけ、きちんと実施できているかを確認し、確実に実施している その記録をもとに状況を把握し、見直している		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアカンファレンスで自由に意見を述べることで、事業所の運営、サービスの内容まで検討する事ができている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにコンビニや喫茶店があるため気軽に利用できる。 近所の習字の先生がボランティアで毎月、習字を教えてくれる		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の要望で受診をお願いする事もあるが、病院との連携もあり、職員が対応している 毎週、主治医が往診してくれ、すぐに医療を受けることができる	入居時に、希望するかかりつけ医について確認し、基本的には職員が受診に対応している。また、週1回の訪問診療や、常勤看護師の配置を、日々の健康管理に活かしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常に勤務していて、気になる事は相談でき、介護職ではできないことの対応が速やかに可能である		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は家族と共に付き添い、情報を書面で交換し、本人に負担がないようにしている 日頃から病院と連携し良い関係を築いている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時点で看取りケアの方針を書面で渡し、理解してもらっている その時点が近づくと再度関係者と話し合いをし、覚書等も作り共有を図っている	入居契約時に、看取りの指針をもとに説明を行い、同意を得ている。状況の変化に伴い、その都度話し合いや意向確認を行い、方針を共有している。昨年、入居者の意向や状況に向き合い、看取りを経験している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の介護対応についての外部研修を受けた者から内部研修を受けている 急変時も速やかな対応ができた 看取りを行ったケースがある		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練は定期的を実施している 日頃から気を配り、設備についても改善を図っている	夜間、日中を想定して、年2回の避難訓練を実施している。職員が地域の防災訓練に参加し、また、運営推進会議等を通じて、災害対策について協議している。	消防署が近く、非常時には迅速な対応が可能である。避難体制や連絡体制については更に協議を重ねながら、地域との協力体制の構築に向けて取り組んでいく意向である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングでも気を付けるように問題提起し、日頃もお互いに注意し合っている 入居者同士でも人格の尊重をお願いしている	「自由に選択し、自由に生きる」という理念のもと、入居者の意志の尊重を大切に捉えている。代表者は、事業所内の様々な関係性の中で、お互いを認め合い、話し合い、自然な交流を継続することで、個々の尊重に結びつけるよう事業運営に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が発した言葉を受け止めて共感するように心がけている できるだけ、その希望が叶えられる様に支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人で居たい時はお部屋に居てもらい、出かけた時はできるだけ付き添っている 希望を確認しながら、できるだけ実践している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容には毎日、目を配り、外出の時はおしゃれもしてもらい、ウキウキした気分を味わってもらっている 訪問美容を2ヶ月に一度お願いしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が調理を任される為、好みの把握も十分で、嫌いな物の時は個別にメニューを変えて提供している お手伝いできる方はお願いしている	入居者も同行して食材の買い物に出かけ、職員が交代で調理している。入居者の嗜好を取り入れ、選択メニューも取り入れながら、バランスの良い食事提供に細やかな配慮が行われている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	キザミや流動食などその方の能力に応じて、十分考えて提供している 食べたい物を要求されたら、そのためだけに買い物に向く事もある		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方は自身ですて頂き、支援の必要に応じ、介助して歯磨きを行ったり、義歯の清潔を保っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	様子観察を行い、見守りを重視して、排泄のサインを見逃さないようにしている 出来る事は行ってもらい、手を出しすぎないように気を付けている	排泄チェック表はわかりやすく作成され、個別の状況やパターンを把握しやすい。適宜に声掛けを行い、トイレ誘導や排泄の自立に向けた支援を行っている。水分摂取量や食材にも配慮しながら、個別に応じた便秘予防にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日運動を促し、水分補給、食材にも気を配っている 必要によって、トイレのこえかけも行う		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	土曜日以外は入浴できる体制を作り、その方の体調に応じて行ない、ゆっくり楽しく入ってもらうように心がけている	土曜日以外は入浴準備を行っている。基本的な入浴スケジュールは設定しているが、希望や体調、状況等に柔軟に対応するよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に入出し、気分に応じて横になったり、音楽を聞いたりして過ごされる 夜間は、静かな環境を作り、用があればすぐに対応し、安心してもらっている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋があり、お互いに服薬情報を確認し、ミスのないように注意している その日の体調等を考慮し、申し送り等で変化に対応している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで片付け、お盆拭き等、役割をお願いしている コーヒーの提供、カラオケで楽しんでもらっている		

福岡県 グループホーム かけはし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頭痛の訴えがあると散歩やお茶飲みに出出して、気分転換を図っている お花を見に車で出かける等、外出の機会を作っている	近隣のコンビニエンスストアや青果店での買い物、和菓子店の喫茶利用等に外出支援を行っている。また、建物中央部分に位置するテラスでの日光浴も行っている。市街地に位置する為、出来るだけ季節を感じられるように外出行事を企画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布に小銭は持ってもらい、出来る方は喫茶店や買い物に出かけ支払をお願いしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求はいつでも受け、支援が必要なときは手伝っている 手紙も要求があればいつでも応じる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、換気等に注意し環境を整え、季節毎のディスプレイを行い、花を飾る等、気持ちよく四季を感じてもらっている ベランダも洗濯を干したり風を感じたりと利用している	4階建ての2、3階部分がホームとなり、中央のテラスは、洗濯物を干したり、日光浴の場所として利用されている。リビングには、季節感ある作品や花が飾られ、ソファの配置等、くつろぎの場所を確保し、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の配置に工夫し、その時に応じてそれぞれが居心地良く交流が図れるように動いてもらっている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から家族とも相談し、馴染みの物を持ち込んで使用しておられる 整理整頓を手伝い、住み心地の良さを大切にしている	トイレや洗面台が設けられた居室や、畳敷きの居室等、希望や状況に応じた選択も可能となっている。テレビや筆筒等が持ち込まれ、使いやすいように配置されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、滑りにくい床、段差の解消を行い、安全、安心に気を付けている 場所や名前等を表示し、自由に動きやすいようにしている		